建築教育ニュース

1990, 11

東日本建築教育研究会

目　　次

1. 挨　　拶 …… 会長　清水守男 …… 1

2. 平成元年度事業および会計（決算）報告 …… 事務局 …… 2

3. 平成２年度事業計画・会計（予算）および役員名簿 …… 事務局 …… 4

4. 平成２年度総会・研究協議会報告 …… 神奈川工高　伊藤鷲二 …… 7
（創立40周年記念神奈川大会）

5. 本会創立40周年記念事業特別会計決算報告 …… 事務局 …… 9

6. 本会〝40周年のあゆみ〟 …… 副会長　山室　滋 …… 10

7. 夏季研究協議会「パースの着彩と添景」に参加して …… 日大東北高　古橋栄吉 …… 15

8. 製図分科会報告 …… 主査 …… 蔵前工高　土田裕康 …… 16

9. 構造分科会報告 …… 主査 …… 市川工高　佐藤　哲 …… 19

10. 計画分科会報告 …… 主査…小田原城北工高　大庭孝雄 …… 21

11. 施工分科会報告 …… 主査 …… 向の岡工高　山崎敏弘 …… 23

12. 製図コンクール運営委員会報告 …… 委員長 …… 田無工高　赤地龍馬 …… 25

13. 事務局より …… 29

14. ニュース …… 29

あとがき

1. 挨　　拶

会長　東京都立田無工業高等学校長　清　水　守　男

本年は，本会の創立四十周年の記念すべき年に当たります。この意義ある年に，私が会長をお引き受けすることになりました。専門分野の違う私には，このような伝統と実績のある研究会の会長は力量不足ですが，本会の慣例で事務局校が担当することになっているとのことでご推挙いただきました。責任と使命の大きさを痛感しております。お引き受けいたしましたからには，微力ではございますが，力一杯本会の研究活動の推進のために努力する所存でございます。会員の皆様方の一層のご支援，ご協力をお願いいたします。

さて，過日，7月25，26日には，本会創立四十周年記念式典および平成2年度総会・研究協議会が神奈川県箱根町のホテル「おかだ」で挙行されました。

ご来賓の文部省の岩本宗治先生はじめ県教育委員会，歴代の会長先生のご臨席をいただきご助言，ご激励を賜わったことは，本会の躍進に大きくつながると考えます。このように会が盛会裡に終りましたことは，会員の皆様の協力，特に地元神奈川県の先生方に負うことが多いと思います。県内会員の総力をあげて，準備，運営に当っていただいたお陰と存じます。心からお礼申しあげる次第です。

今，社会に目を転じますと，二十一世紀に向けて激しく変動しております。科学技術の進歩，経済の発展は，物質的な豊かさを生むとともに，情報化，国際化，高齢化など各方面に大きな変化をもたらしています。この社会の中にあって，工業教育をどのように改革していくかが，今日の大きな課題であります。このことについては，また各方面から多くの指摘や提言がなされております。特に，新学習指導要領に示された指針はその基幹となっております。

1. 心豊かな人間の育成
2. 自己教育力の育成
3. 基礎・基本の重視と個性を生かす教育の充実
4. 文化と伝統の尊重と国際理解の推進

よく言われる指摘ですが，更めて見直し，教育改善の視点として忘れてはなりません。その意味において，神奈川大会においての研究発表「インテリジェントスクールの試み」，「コンピュータを授業にどう取り入れたらよいか」は，時を得た教育実践であると思います。今は，まさに，論議の段階ではなく実践の段階であります。会員の方々の中には，まだ，多くの改善や実践をされておられることと存じます。本誌等で，積極的に発表提言をいただき，相互の切磋琢磨を深め，建築教育を更に充実発展させたいと存じます。

終わりに，本会会員の諸先生方の一層のご発展と，ご活躍を心からお祈りして，私のご挨拶とさせていただきます。

2. 平成元年度　事　業　報　告

1. 総会・研究協議会

期　日：平成元年６月９日（金）～10日（土）

会　場：焼津観光ホテル「松風閣」　TEL　0546-28-3131

1）　総会 …… 第１日（６月９日）

2）　研究協議会（分科会）

ア）　製図分科会：設計製図（設計課題）の学習指導について

イ）　計画分科会：教科書（建築計画）の検討と法規の手引書について

ウ）　構造分科会：木構造の学習指導について

エ）　施工分科会：施工実習の項目と実習報告書について

3）　研究協議会（全体会）……　第２日（６月10日）

研究発表１：赤外線映像装置による温度測定の外壁診断

修善寺工　　瀬戸　翔司

研究発表２：関市立体地図の製作ならびに掲示用ＣＡＩの開発

関商工　　恩田　一光

4）　研究視察

「登呂遺跡・同博物館及び芹沢銈介美術館」（静岡市）

2. 夏季講習会

内　容：設計製図の指導について〔ＣＡＤ（初級コース）について〕

期　日：平成元年７月25日（火），26日（水）

会　場：埼玉県立大宮工業高等学校

3. 常任理事会・委員会等（年４～６回）

1）　常任理事会：会長，副会長，事務局長，分科会主査，代表理事若干名

2）　主　査　会：会長，副会長，分科会主査，事務局長

3）　各 分 科 会：分科会主査，学校代表委員若干名

4）　教材委員会：委員長，副会長，委員若干名

5）　製図コンクール運営委員会：委員長，副会長，委員若干名

6）　工業標準テスト問題作成委員：会長，委員４名（藤沢，熊谷，葛西，東工大附工）

7）　編集委員会：委員長，副会長，委員若干名

8）　創立40周年記念実行委員会：会長，副会長，委員

4. 刊行物 ……　建築教育ニュース　1989年号　11月発行

……　新版　建築の基礎問題　３月発行

5. 製図コンクール（第８回）　平成元年11月

平成元年度　会計決算報告

下記のとおり報告いたします。

会長　加曽利　政　男
会計　事　務　局

1. 収入額

項目	予算額	決算額	増減額	摘要
会費	720,000	745,000	25,000	149校分
雑収入	20,763	21,210	447	助成金，銀行利子
印税	70,000	93,748	23,748	基礎問題，図集等
賛助会補助	100,000	100,000	0	
繰越金	193,237	193,237	0	昭和63年度繰越金
合計	1,104,000	1,153,195	49,195	

2. 支出額

項目		予算額	決算額	増減額	摘要
1) 事業費		820,000	742,740	77,260	
	総会費	320,000	255,000	65,000	会場校補助，本部経費等
	資料費	160,000	137,740	22,260	資料，ニュース印刷費等
	講習会補助	60,000	60,000	0	夏季講習会（製図）補助
	出張補助費	100,000	110,000	−10,000	西日本，北海道出張補助
	分科会費	180,000	180,000	0	4分科会　各4万5千円
2) 運営費		265,000	191,250	73,750	
	役員会議費	30,000	0	30,000	理事会，主査会
	通信費	145,000	101,250	43,750	総会通知，ニュース発送等
	雑費	25,000	25,000	0	事務用品代
	事務費	15,000	15,000	0	事務局手当て
	準備費	50,000	50,000	0	名簿積立金（合計15万円）
3) 予備費		19,000	0	19,000	
4) 合計		1,104,000	933,990	170,010	

3. 差引残高　1,153,195 − 933,990 = 219,205円　収入増　49,195円
4. 次年度繰越　219,205円　支出減　170,010円

会計監査の結果，収支，帳簿等相違ないことを認めます。

平成2年3月31日

会計監査　間宮　靖郎
田島　昇

3. 平成2年度　事　業　計　画

1. 総会・研究協議会

期　日：平成2年7月25日（水）～26日（木）

会　場：ホテル「おかだ」　TEL　0460-5-6000

1）　総会 …… 第1日（7月25日）

2）　創立40周年記念式典

3）　記念講演

講　師：東京大学名誉教授　工学博士　梅村　魁

演　題：「自然災害と科学技術」について

4）　研究協議会（全体会）…… 第2日（7月26日）

研究発表1：「川崎市におけるインテリジェントスクールの試み」

川崎市立工　依田　洋次

研究発表2：「コンピュータを授業にどう取り入れたらよいか」

～CADの実践を通しての試案～

川崎市立工　池田　幸正

2. 夏季講習会

内　容：「パースの着彩と添景」の実技演習

期　日：平成2年8月7日（火），8日（水）

会　場：日本工業大学付属東京工業高等学校

講　師：プロトデザイン事務所　所長　中村　勝彦

3. 常任理事会・委員会等（年5～7回）

1）　常任理事会：会長，副会長，事務局長，分科会主査，代表理事若干名

2）　主　査　会：会長，副会長，分科会主査，事務局長

3）　各 分 科 会：分科会主査，学校代表委員若干名

4）　教材委員会：委員長，副会長，委員若干名

5）　製図コンクール運営委員会：委員長，副会長，委員若干名

6）　工業標準テスト問題作成委員：会長，委員4名（葛西，東工大附，横須賀，川越工）

7）　編集委員会：委員長，副会長，委員若干名

8）　創立40周年記念実行委員会：会長，副会長，委員

4. 刊行物 …… 建築教育 ニュース 1990年号（11月発行予定）

5. 製図コンクール（第9回）　平成2年11月

平成２年度　予　　算

平成２年４月１日

1. 収　入　額

項　　目	予算額	摘　　要
会　　費	720,000	144校分
雑　収　入	20,795	助成金，銀行利子
印　　税	70,000	基礎問題，図集等
繰　越　金	219,205	平成元年度繰越金
合　　計	1,030,000	

2. 支　　出

項　　目		予算額	摘　　要
1）	事　業　費	790,000	
	総　会　費	290,000	本部経費等
	資　料　費	150,000	総会資料，ニュース等印刷費
	講習会補助	60,000	夏季講習会補助等
	出張補助費	110,000	西日本，北海道出張補助
	分科会費	180,000	４分科会　各４万５千円
2）	運　営　費	235,000	
	役員会議費	20,000	理事会，主査会等
	通　信　費	125,000	総会通知，ニュース発送通信費
	雑　　費	25,000	事務用品代
	事　務　費	15,000	事務局手当
	準　備　費	50,000	名簿作成積立金（合計20万円）
3）	予　備　費	5,000	
4）	合　　計	1,030,000	

平成2年度　役員名簿

1. 会長	東京都立田無工業高等学校	校長	清水守男
2. 副会長	神奈川県立神奈川工業高等学校	教諭	山室滋
	東京都立墨田工業高等学校	教諭	佐藤賢吉
3. 事務局長	東京都立田無工業高等学校	教諭	赤地龍馬
4. 会計監査	東京都立墨田工業高等学校	教諭	間宮靖郎
	埼玉県立春日部工業高等学校	教諭	田島昇
5. 常任理事	清水守男（会長）		
	山室滋（副会長）	佐藤賢吉	（副会長）
	土田裕康（製図主査・蔵前工）	大庭孝雄	（計画主査）
	佐藤哲（構造主査）	山崎敏弘	（施工主査）
	古賀昌之（東工大附工）	赤地龍馬	（田無工）
	松田紘（小石川工）	松井貞二	（葛西工）
	小野幹郎（日工大付東京工）	大間俊彦	（関東第一高）
	高橋義治（市川工）	大沢二郎	（川越工）
	岡田義治（宇都宮工）	土屋健	（甲府工）
	石黒由美（藤岡工）		

6. 各部会委員

1）製図部会：	主査・土田裕康（蔵前工）		
	古賀昌之（東工大附工）	赤地龍馬	（田無工）
	福島勝（日工大付東京工）	遠藤勇	（日工大付東京工）
	高橋義治（市川工）	塩沢泰	（関東第一高）
	松本重昭（大宮工）	酒井健一	（神奈川工）
	依田洋次（川崎市工）	角田勝男	（神奈川工）
		金井孝雄	（前橋工）
2）計画部会：	主査・大庭孝雄（小田原城北工）		
	門馬進（東工大附工）	佐藤賢吉	（墨田工）
	大橋正俊（小石川工）	大間俊彦	（関東第一高）
	高野秀章（日工大付東京工）	本田友一	（川越工）
	田中良司（大宮工）	伊藤鷲二	（神奈川工）
	岩崎峻（桐生工）		
3）構造部会：	主査・佐藤哲（市川工）		
	栗原博（東工大附工）	松井貞二	（葛西工）
	本間正明（田無工）	遠山時幸	（安田学園）
	池田幸正（川崎市工）	佐藤功	（川越工）
	安斎信嘉（長野原高）	福住英毅	（神奈川工）
	渡辺忠雄（日工大付東京工）	筒井喜男隆	（鶴見工定）
4）施工部会：	主査・山崎敏弘（向の岡工）		
	山室滋（神奈川工定）	土屋健	（甲府工）
	小野幹郎（日工大付東京工）	三浦陽助	（横須賀市工）
	堀口武（越生高）	奥田幸司	（小石川工）
	村上竹久（藤沢工）	高橋康宏	（田無工）
	塩山昇（熊谷工）	田島昇	（春日部工）
	内藤美雪丸（日工大付東京工）	中尾太郎治	（葛西工）

7. 教材委員会：	委員長・山室滋（神奈川工定）		
	佐藤賢吉（副会長）	赤地龍馬	（事務局長）
	土田裕康（製図主査）	大庭孝雄	（計画主査）
	佐藤哲（構造主査）	山崎敏弘	（施工主査）
8. 編集委員会：	委員長・古賀昌之（東工大附工）		
	池田幸正（川崎市工）	遠藤勇	（日工大付東京工）
	中尾太郎治（葛西工）	大間俊彦	（関東第一高）
9. 製図コンクール運営委員会：	委員長・赤地龍馬（田無工）		
	遠藤勇（日工大付東京工）	筒井喜男隆	（鶴見工定）
	大間俊彦（関東第一高）	角田勝男	（神奈川工）
	古賀昌之（東工大附工）	福島勝	（日工大付東京工）
	酒井健一（神奈川工）	本間正明	（田無工）
	塩沢泰（関東第一高）	塩山昇	（熊谷工）
	高橋義治（市川工）	高橋康宏	（田無工）
	高野秀章（日工大付東京工）	依田洋次	（川崎市工）
	土田裕康（蔵前工）	金井孝雄	（前橋工）
	松本重昭（大宮工）		

以上

4. 平成２年度　総会・研究協議会報告

東日本建築教育研究会　創立40周年記念神奈川大会

神奈川県立神奈川工業高等学校　　伊　藤　鷲　二

日時　　平成２年７月25日（水）～26日（木）　　参加者：２２８名

会場　　神奈川県箱根町　ホテル「おかだ」

日程　　第１日　　７月25日（水）

⑴　開会式

⑴開会のことば　⑵神奈川大会実行委員長あいさつ　⑶会長あいさつ

⑷神奈川教育委員会教育長祝辞　⑸来賓祝辞

⑵　総会議事

⑴平成元年度事業報告および決算報告　⑵会計監査報告　⑶役員改選

⑷平成２年度事業計画および予算審議

⑶　分科会報告

計画・製図・構造・施工の各分科会および製図コンクール運営委員会

⑷　創立40周年記念式典

⑴会長祝辞　⑵祝辞　⑶40年のあゆみ

⑸　記念講演

「自然災害と科学技術」　東京大学名誉教授　工学博士　梅村　魁

⑹　教育懇談会

第２日　　７月26日（木）

⑴　研究協議会　（全体会）

⑴研究発表　1.「川崎市におけるインテリジェントスクールの試み」

依田　洋次（川崎市立工）

2.「コンピュータを授業にどう取り入れたらよいか」

～ＣＡＤの実践を通しての試み～　池田　幸正（川崎市立工）

⑵　講　評

⑶　閉会式

⑴謝辞　⑵次期開催県（宮城県）代表あいさつ　⑶閉会のことば

⑷　報告・諸連絡

大会をふりかえって

今年の大会は７月25，26の両日箱根町のホテル「おかだ」で開催し無事終了いたしまし

た。今大会が研究会の創立40周年を記念する大会だということで，当番県を仰せつかってから大会までの期間，およそ２年間の準備の足跡をたどりながら大会をふり返ってみたいと思う。

40周年の大会を神奈川県でという話をいただいて準備委員会が組織されたのは一昨年（1988年）の９月であった。県内建築科設置校から課程ごとに準備委員を選出し，昨年の３月までに３回の委員会を開いて協議し，日程・会場等を決定し基本的方向を確認した。さらに４月からは準備委員会を拡充して実行委員会に改組し，大会に向けての準備を本格的にスタートした。

20年前の20回大会も当県で開催したのであるが，「周辺でお手伝いをしていました」という方を除いては当時の経験者は実行委員会メンバーにはおらず，ただ「準備は大変だった」という話を聞いていた者と，20回大会以降に会員になった者ばかりであった。

当然のことながら実行委員は初めての経験である。何をどのように手を着けたらよいのか，38回埼玉大会の準備段階の資料を基に神奈川大会へ向けてのタイムスケジュールを策定し，大会まで計13回の実行委員会を開いて準備にあたった。時には２時から始めた委員会が８時近くになって終了したこともあった。

実行委員会で最も頭を悩ませたのは資金の問題であった。参加費だけでは大会運営は不可能であり，県・市をはじめ業界等に協力をあおがなければならないことであった。委員会では大会資料に企業の広告を掲載する方法で資金問題に目処をつけ，各校分担して企業に協力をお願いした。幸いにもお願いに伺った企業の多くが快く引き受けてくれたことは誠に有り難いことであった。

記念大会ということで，いつもにもまして本部と意志の疎通を計らなければならない。大会資料には研究発表をも収録して一冊にまとめ，大会当日に配布するプリント類は極力なくしたいというのが，実行委員会で確認した方向であった。そのため本部関係の報告等も併せて収めたいということで，だいぶ本部を煩わせてしまった。結果としては本部の意向と折衷する形で分冊としてファイルにとじる方式に一部改めた。

大会は来賓を含めて228名が参加し，初日は総会・式典に引き続き梅村先生の記念講演と教育懇談会が，２日目は川崎市立工から研究発表が２本あって幕をとじた。

私たち実行委員会では大会の模様をＶＴＲに収録して保存するとともに，梅村先生の講演は冊子にまとめて会員校に配布し，研究会創立40周年の大会の記念とすることにした。

5. 本会創立40周年記念事業特別会計決算報告

この度の創立40周年記念大会を開催するに際し，皆様の絶大なるご援助をいただきましたことを深く感激しております。会計決算につきましては，40周年記念式典の会場でご報告いたしました。あらためて厚くお礼申し上げます。

1. 収入の部

項　目	金　額	備　考
1. 特別会計	3,346,900	延べ募金口数　348.5口分
預金利子	67,427	大東京信用組合・抜弁天郵便局
収入の合計	3,414,327	

2. 支出の部

項　目	予算額	支出額	増減額	備　考
1. 記念式典並びに記念講演会	200,000	257,980	57,980	講師謝礼　交通費他
2. 記念誌作成費	1,300,000	1,165,000	−135,000	600部　印刷製本費他
3. 名簿発行費	700,000	600,000	−100,000	1,500部　印刷製本費他
4. その他	300,000	138,288	−161,712	募金経費　会議費他
支出の合計	2,500,000	2,161,268	−338,732	

3. 差引残高

3,414,327円 − 2,161,268円 = 1,253,059円
（収入の部）　（支出の部）

残金はすべて本部賛助金として繰り入れる。

上記の通り報告いたします。

平成2年7月25日

創立40周年記念事業実行委員会　会計担当　松田　紘㊞
奥田　幸司㊞

監査の結果上記の通り正確に処理されていることを認めます。

平成2年7月25日

創立40周年記念事業実行委員会　会計監査　佐藤　賢吉㊞

6. 本会 "40周年のあゆみ"

副会長　神奈川県立神奈川工業高校　　山　室　　滋

はじめに

ここに掲載する内容は，東日本建築教育研究会創立40周年記念神奈川大会の記念式典の行事に"40周年のあゆみ"をお話ししたものを寄稿しました。

まづ，ご出席の会員の皆様並びに，ご来賓の皆様にお礼の挨拶を申し上げたのち，"40周年のあゆみ"については，お手元の創立40周年記念誌の80頁に，東日本建築教育研究会のあゆみが掲載されていることと，創立30周年記念誌にも同様な主旨のものと参考事項が掲載されておりましたので，これらの内容を基にしてお話しを進めて参ります。と申し上げて，20分間の持ち時間で次のようにまとめました。

1. 東日本建築教育研究会創設当時のご苦労

本会は，当初"関東地区建築教育研究会"の名称で昭和26年発会しました。

当時は工業科の各科に研究会という組織立つたものがなかったことと，全国工業高等学校長協会は現在のように，もの分かりのいいものではなかったので各科の研究会などの設立はあまり歓迎しなかった様子で，"研究会としての参加校を40～50校以下とするように"との主旨でした。

そこで，やむなく関東地区の工業高校を目標とし「関東地区建築教育研究会」として発足したわけです。

しかし，東北地方や中部地方からも続々と参加を求めて参りましたので，昭和28年「東日本建築教育研究会」に改称して今日へと発展し，現在参加校 140校を超える規模となりました。

この頃から，応用化学科，工芸科および，土木科では全国組織を作りましたが，建築科は既に近畿工高連盟，現在の西日本工高建築連盟が存在していましたので，合同することなく，協力関係で会の運営を図って参りました。

このように，会の設立には科の研究会という前例がなかったため，いろいろな制約，ご苦労がありましたが，先輩の建築科教師達の"建築科の研究会を作ろうじゃないか"という熱意が障害を乗り超えて，会の設立と今日の繁栄の基礎を築いたわけであります。

また，会の設立に続いて"標準テスト"を本会が独自に始めたものであり，全国工業高等学校長協会に引き継がれて，昭和31年度から実施しております。

この他，学習指導要領の改訂に合わせて・学習指導の手引き（建築科編）の編集なども

建築科が先がけたもので，輝かしい功績であります。

2. 本会の運営

会の運営について主だった内容で話しを進めてまいります。

1) 会長について

設立当時は現在の会長制でなく理事長制をとっておりましたが，昭和46年から会長制に移行しました。

初代理事長伏見先生，二代理事長中江先生，三代理事長富塚先生，そして昭和40年から初代会長長谷川先生，二代会長池田先生と続き，すべて建築科出身の校長が理事長・会長と務めてまいりました。

そして，次の会長となった都立葛西工高の堀校長（電気科）先生が，〝これからは今までのように東京近くの学校から建築科出身の校長が誕生する様子もなさそうだ〟とのご配慮と，設立当初より東京都立の学校が事務局を担当して来たという実績もあって，「東京都立の事務局担当校の校長が輪番制で３ヶ年づつ会長を務める」ということを東京都立の校長会にお計り戴いたという経緯があります。

お陰様で，都立の葛西工高，蔵前工高，墨田工高，小石川工高，そして本年度から田無工高へと進めて戴き，会の発展に寄与して戴いております。

2) 理事と理事会について

会則によると，〝理事は各都県会員の中から夫々１名以上互選する〟そして，〝内，若干を常任とする〟となっております。

そこで，理事の割合について申しますと，東京都は会の業務・運営上各校１名，神奈川県は学校数が多いことと事務局の手助けをするということで３名，その他の県は１名，ただし，千葉県は構造分科会の主査を加えて２名，北海道は代表校２名程度としております。

理事会は，このメンバーに建築科出身の学校長を理事に加えて，総会当日開催しております。

3) 常任理事会について

常任理事会は事務局に近い神奈川県，千葉県，埼玉県の理事を常任理事として，常任理事会を年５～７回程度開催し，会の運営に務めております。

本年度からは，昨今の交通事情の発達を考えて，静岡，山梨，群馬，栃木，茨城の各県まで範囲を広げて，地域のふれあい，交流を計りながら会の運営を進めているところです。

これは，東京に近い会員を多く常任理事にお願いするよりも，できるだけ広範囲の会員の意見を大切にして，ふれあいを高めて行きたいという理由によるものです。

遠方の場合，会の事務局までの出張の時間・旅費の点など，ご迷惑の問題もあると存じますが，何分よろしくご協力の程お願い申し上げます。

4) 総会当日の研究発表と4分科会の設置

設立当初の〝研究協議会〟は，教科書編集，視覚教育について本会事務局が中心となって実施しておりました。

その後，昭和30年ごろからは総会の開催県が総会の準備と研究発表とを併せて行うという場合が多く，総会の開催県には非常な負担を強いる実状でありました。

そのため，本研究会は，会の中に教科研究部会を設置して，これを毎年の総会会場で研究発表を行うようにしてはどうか，ということになり，昭和43年度に製図分科会と実習分科会が加わり，現在のような，計画・構造・製図・実習の4分科会が誕生しました。

4分科会による研究協議会は昭和44年度の総会・研究協議会からスタートしたものです。

なお，実習分科会は，昭和47年に施工分科会と改称して他の分科会の実験・実習との分担を明確にしました。

会則の6条には，専門委員，8条には専門委員会というのがありますが，これが分科会委員と分科会に相当するものと考えます。

5) 分科会・分科会委員

4分科会の委員会々場は東京近県の会員校を使って行なわれる場合が多いため，この会場に出席できる地域の会員を委員にお願いして，会を構成し，委員会を開催しております。各分科会の委員会は年5～7回程度開催してます。

各分科会の委員名は，役員名簿の通りであります。この分科会委員の選出にあたっては，「第1に各学校の授業に支障のないようにするという配慮から，各校1名，2クラスの学校でも最多2名とし，毎年互選して行う」というのが分科会設置当時の内規であります。

この点をご理解頂き，分科会への参加の程お願いすると共に，遠方の地域の会員には，分科会へのご意見をお寄せ戴きますよう併せてお願い申し上げます。

6) 秋の講習会・見学会と夏の講習会

秋の講習会・見学会は大学や研究所などの先生にお願いして，昭和48年度まで毎年のように行なわれて，有意義な日程を過ごしてまいりました。

夏の講習会は，4分科会の誕生によって〝我々の手で身近かな学習指導の研究を行なおうではないか〟ということで，昭和47年夏に施工分科会が主体となって横須賀工高を会場に実施したのがはじまりです。

この時は，教育課程の改訂により，準教科書「建築実習」の発行の機会をとらえての実践指導の施工実習夏期研究協議会（夏期講習会）でした。

その後，４分科会が毎年交替でテーマを設定し，今日まで実施しております。

今年の夏季講習会は製図分科会が中心となって，日本工業大学付属東京工高において８月７日～８日の両日行なうことになっております。

7）製図コンクール

製図コンクールは昭和57年に第１回を実施し，毎年回を追うごとに応募者も増加し，その内容も充実して今日に至っております。お手元の記念誌44頁からの資料の通りです。

この製図コンクールには本会々員の他，西日本工高建築連盟の会員校やその他の遠方の学校からも応募があり，誠に喜ばしい実状であります。

8）教材委員会

本会の設立当初から西日本工高建築連盟と協力して教科書について研究協議を重ねておりましたことから，昭和30年に〝演習書編集委員会〟を設置しました。そして「構造力学演習書」の発行をきっかけにして，昭和31年に「建築法規」，昭和35年に「建築工事積算書」，昭和42年に「建築設備」などを，また，昭和45年に「建築会社就職全科」を発行しております。

その後，演習書編集委員会を〝教科委員会〟に改称して，昭和52年「建築の基礎問題」と「建築資料集」を発行したのち，昨年３月に「建築の基礎問題」を新訂版で発行しました。

この「建築の基礎問題」の本の印税が本会収入の一部になっております。何分よろしくご採用の程お願い申し上げます。

9）編集委員会

この委員会は名簿と建築ニュースの編集と発行を担当するところで，いづれも手数と注意力を煩わしております。

建築教育ニュースは，昭和44年頃の４分科会誕生あたりから毎年秋に発行しております。

名簿の発行は昭和50年代までは３～５年目ごとに，昭和60年を前後する頃は会員の入れ替わりが多くなるに従って隔年または毎年のように名簿を発行しました。

本年は40周年を記念して名簿を発行しました，より一層会員相互のご交流を深めて会の発展に寄与して戴きたいと存じます。

3.　教育課程の変遷と建築教育

学習指導要領がつくられたのは，昭和26年ですが，これは試案として発表され，昭和31年試案を改正して正式な制定となりました。

建築科の科目数は昭和26年には６科目でありました。これは，当時アメリカの指導もあ

り，戦後最初のことで目やすとして定められた程度と言われております。

昭和31年の指導要領は〝技術の高度化〟という気運の盛りあがっている時で，レベルの向上もあって，科目数が14科目となりました。

これは，昭和35年度告示の昭和38年度改訂実施年度にも引き継がれましたが，昭和48年改訂実施年度には〝指導内容を学問体系から技術体系に改めよ〟ということと〝内容を融合して科目数を減少せよ〟ということで，８科目に減少しました。

続いて昭和57年改訂実施年度には，建築史，法規の科目が減り，代りに工業基礎・工業数理が新らしく加わり，今までのような建築の科目は６科目となりました。

科目数が８科目に減少した昭和48年ごろの社会のすう勢は，大学の進学率の増大，それに伴って工業高校への希望者の減少と生徒の学力低下，そして多様化の問題が表面化して来た頃です。

この当時の教育現場では科目数の減少について多方面から異論がありましたが〝科目数の減少についていつまでも愚痴をこぼしているよりも直面している多様化の波にさらされている生徒の教育に対して前向きに取組む必要がある。そして 生徒の理実の建築分野 に就職して役立つ教育を確立しなければならない〟ということで，各々の職場で科目の融合について日夜研究され，その結果今日の教育方針を築きあげてまいりました。

昨年，指導要領改訂の告示があり，平成６年に実施されることになりました。

このなかには，今までの建築の科目に「法規」が加わるという大変嬉しい機運になってまいりました。今日まで科目数の減少に伴って研究 してきた指導法の実績を生かして，今後の建築教育に邁進しようではありませんか。

今回の指導要領の改訂でも「建築科は工業に関する学科として存続する」のであります。今後共建築科教師の総知を結集して明日の建築教育のために頑張って行こうではありませんか。会員皆様のご協力をお願いするものであります。

断片的な話しになりましたが，これで「建築教育40周年のあゆみ」とします。

7. 平成２年度　夏季研究協議会に参加して
「パースの着彩と添景」

日本大学東北高等学校教諭　古　橋　栄　吉

昨今の講習会といえば，コンピューター関係が決りのようである。今夏は，それに逆行するかのようなパースの実技講習会が８月７日，８日の２日間にわたって，日本工業大学付属東京工業高校において行われた。

プロの講師を招きパースの実技指導を受けた。普段，プロの仕事現場を直接お目に掛かれないだけに，有難い企画であり，貴重な体験であった。

受講しての感想は，透視図法の知識は勿論，感性と用具を駆使しての微妙な手仕事による絵ごころがノウ・ハウの全てであった。また，ベテランであられる講師・中村勝彦氏の熱のこもった話と高度なテクニックは，何にも勝る説得力を感じた。

第一日目の研究活動は，透視図法全般についての講義であった。我々が生徒に教えている足線法から，プロの実務的図法としての距離点法，測点法などを達者なフリーハンドでの図解をまじえ説明してもらった。

昼休みなどの休憩時には制作途中のものから完成作品まで数多くの参考作品を展示していただき，着彩のプロセス，筆のタッチなど作品の息遣いまでも鑑賞できたことは大変に嬉しかった。

午後に入るとビデオカメラと２台のテレビをとおして，翌日の着彩演習に備え，絵具，筆など用具の説明。さらには講師自らの着彩実演を見ることができた。ユーモアを交えての解説，スピーディかつ確かなテクニックに受講者66名は魅了させられた。

第二日目は，下描き済みの用紙（キャンソンボード）が配られ，着彩演習を行った。着彩プロセスに応じ，講師自らのデモンストレーションと，我々のテーブル（１テーブル４人～８人）を巡回しての指導を受けることができた。いざ，自分で描く段になると何から何まで勝手が違うし，描くスピードも遅く，講師との技術の差を痛感した。

終りには受講者全員の作品講評があった。完成作品こそ少なかったが八分通りの仕上りにも，各自の感性表現の楽しさを窺えることができた。

２日間で多くを研修することができた。今後これらを身につけ，生かすには，まず我々自らがエンピツと筆をもって挑戦していかなければならないだろう。

最後に，ご指導に当られたプロト建築事務所長の中村勝彦氏，同所員の玉田浩基氏，並びに担当校の日本工業大学付属東京工業高等学校はじめ企画から準備にあたられた諸先生方に厚く感謝申し上げます。

8. 製図分科会報告

東京都立蔵前工業高等学校　　土　田　裕　康

1 分科会の動向

平成元年10月から平成２年９月までの，１年間の製図分科会の動向について報告します。

- ○ 第８回（平成元年度）製図コンクールの運営に協力（平成元年２月～12月）。
- ○ 平成２年度　夏季研究協議会「パースの着彩と添景（実技演習）」の運営に全面協力（会場　日本工業大学付属東京工業高等学校）（平成２年８月７・８日）
- ○ 夏季研究協議会において，パースの着彩と添景実技演習に関するアンケート実施。

2 平成２年度　夏季研究協議会

平成２年度は本来周年記念事業の年に該当するため，夏季研究協議会は行なわないことになっていたが，平成元年度夏季研究協議会参加者によるアンケート結果から，パースの着色講習会の希望が多いことから，特別に行なうこととなった。今回は，日本工業大学付属東京工業高等学校校長小笠原朋憲先生，建築科長小野幹郎先生のご理解あるご指導とご協力を賜わり，前製図分科会主査赤地龍馬先生はじめ製図分科会が中心となり実施した。

1. 内容：「パースの着彩と添景」実技演習
2. 期日：平成２年８月７日（火），８日（水）
3. 会場：日本工業大学付属東京工業高等学校
4. 参加者：67名
5. 時程：第１日目，８月７日（火）

1. 開講式	受付　８：50 ～ ９：00 ９：00 ～ ９：30	司会	遠藤　勇
1） 開会のことば	製図分科会主査		土田裕康
2） 会長挨拶	東日本建築教育研究会会長		清水守男
3） 会場校挨拶	東京工業高等学校長		小笠原朋憲
4） 講師紹介			赤地龍馬
5） 日程・概要の説明			
2. 記念写真	正面玄関		
3. 研究活動（326・327教室）	講師・プロト建築事務所・所長		中村勝彦
	東京YMCA デザイン研究所講師		
	プロト建築事務所		玉田浩基
９：30 ～ 12：00	講義・パース全般について		

12：00 ～ 13：00	昼食・３２４・３２５教室	
13：00 ～ 17：00	講師・受講生（外観着彩）実技演習	
	教育機器展示場　３２８・３２９教室	
4. 教育懇談会（地下講堂）	17：30 ～ 19：00	司会　松本重昭
会長挨拶	代理副会長	山室　滋
会場校挨拶	日工大建築学科主任教授	北後　寿
会場校挨拶	東京工業高等学校長	小笠原朋憲
乾杯	東京工業高等学校建築科長	小野幹郎
講師挨拶	プロト建築事務所・所長 東京YMCAデザイン研究所講師	中村勝彦

第２日目　８月８日（水）	受付　８：40 ～ ９：00	
5. 研究活動（326・327教室）		
９：00 ～ 12：00	外観着彩実技演習	
12：00 ～ 13：00	昼食・３２４・３２５教室	
13：00 ～ 15：30	外観着彩実技演習	
15：30 ～ 17：00	受講生作品講評	
6. 閉講式（326・327教室）	17：00 ～ 17：30	司会　遠藤　勇
1）閉会の挨拶	東日本建築教育研究会副会長	山室　滋
2）講師講評	プロト建築事務所・所長 東京YMCAデザイン研究所講師	中村勝彦
3）会場校挨拶	東京工業高等学校建築科長	小野幹郎
4）閉会のことば	事務局	赤地龍馬

[3]　夏季研究協議会参加者 ―― アンケート結果（回答者56名）

夏季研究協議会終了後，参加者の方々に次のようなアンケートを行ない，次のような結果を得たので報告します。

東日本建築教育研究会夏季研究協議会

パースの着彩と添景　実技演習　アンケート用紙　（製図分科会）

1. 学校名・氏名（　　）
2. 今回のような方法で着彩をしたことがありますか？
   ① ある　② ない
   (29)　(27)
3. 先生方の学校で透視図関係の授業はどの程度やっていますか？
   ① 全然やっていない　② 図法のみ　③ 図法と着彩
   (1)　(15)　(40)

4. 透視図の指導はどのように行っていますか？
（御自由にお書きください。）
5. 今回の講習会の内容を学校でどのように役立たせるつもりですか？
① 学校でやるのは無理　② 線画（えんぴつ，製図ペン）程度　③ 道具だけは買わ
（1）　（2）　（0）
せる　④ 基本的（今回の内容程度）な着彩をやらせる
(53)
6. 透視図教育で工夫している点がありましたら具体的にお書きください（例　講師を招く，ＶＴＲを利用する，テキストの作成）
7. 次回（４年後の予定）の講習会で取り上げてほしい内容をお書きください。
① 模型作りの講習　② ＣＡＤ（透視図を含めた）
③ その他（具体的にお書き下さい。）
①35　②17　③2
8. 感想，ご意見

4. 透視図の指導はどのように行っていますか。
- 図法の説明を行ない，着彩はＶＴＲ，広告を参考
- 外部講師による指導
- １年の工業基礎で行なっている
- 図法を重点的に行なっている
- テキストで簡単な指導をしている
- 実習の中で図法と着彩を行なっている
- 理論から着彩まで行なっている

8. 感想，ご意見
- 今後も練習を積んでいきたい
- 大変参考になった。今後の授業に生かしたいと思う
- 大変楽しく勉強できた
- このような講習は定期的にやってほしい
- 少々スピードが速かった
- パースに対する興味がわいてきた
- 係の先生方，講師の先生方に感謝します。特に講師の先生がよかった
- 水の使い方を指導してほしかった
- もう少し実習の時間が多いとよい。出来ればもう１日
- 今後もこのような現場の方の指導をお願いしたい

最後になりましたが，今年度より，前主査赤地先生が事務局長をされることになりましたので，土田が主査を引受けることになりました。会員の皆様のご指導・ご協力をお願い申し上げます。

9. 構造分科会報告

千葉県立市川工業高校　佐　藤　　哲

平成元年９月から平成２年８月まで１年間の構造分科会の活動状況の概略を報告します。

元年10月11日(月)　第１回構造分科会委員会（東工大附属工高）

○ 平成元年度研究協議会（静岡大会）の報告

構造分科会では筒井喜男隆委員（横浜市立鶴見工高定）に３階建て木造住宅に焦点を当てて，研究協議を行ってもらったので，その内容について報告します。

○ 在来軸組工法による３階建て木造住宅について

1. 改正建築基準法で木構造に関する部分の概要説明
   - ① 在来木造について
   - ② 大断面木造について
   - ③ 構造計算のフロー
   - ④ 防火設計
2. 木造３階建てにした場合の留意点
   - ① 重心が高くなる
   - ② 全体の変形が大きくなる
   - ③ 全体の重量が大きくなる
3. 新３階建て木造住宅簡易設計基準の内容
   - ① 適用範囲
   - ② 形態
   - ③ 柱
   - ④ はり及びけた
4. 意見交換とまとめ
   - ① 授業展開
   - ② 教科書との関連

○ 「パソコンプログラム集（第２集）」について

1. プログラム学習（ステップ学習）に必要なステップを重点的に考えていけば必然的にプログラムができるのでないか。
2. ステップ学習において，パソコンのみを考えなくても，ＯＨＰやビデオ等も一緒に導入として考えたらプログラムも楽になる。

以上の事を確認し，次回は各委員がステップ学習の内容を持ちよることにした。

元年12月４日(月)　第２回構造分科会委員会（東工大附属工高）

○ プログラム学習（ステップ学習）についての検討

各委員で持ち寄ってもらった，力のはたらき，モーメントの求めかた，断面の性

質について検討を行った。

モーメントの求めかたについては，遠山時幸委員（安田学園高校）にモーメント指示装置の製作を依頼した。

○　平成元年度見学会について

財団法人鋼材倶楽部の協力を得て本年度の見学会はグリーンドーム前橋（旧仮称前橋イベントホール）の工事現場に決定した

2年4月16日(月)　第3回構造分科会委員会（東工大附属工高）

○　グリーンドーム前橋工事現場見学会の報告

安斎信嘉委員（長野原高校）の協力を得て平成2年2月3日(土)，無事見学会を終えることができた。

当日はまだ少し雪少し雪が残っていたが24名の参加を得て見学した。

グリーンドーム前橋は建築面積：25,384.8㎡，延床面積：59,693.1㎡，地下1階地上6階の7層でラーメン構造，大屋根張弦梁構造で構造的に興味があった。

○　平成2年度の見学会について

平成2年度の見学会について検討したが結論は得られず次回の検討課題にした。

2年6月1日(金)　第4回構造分科会委員会（安田学園高校）

○　平成2年度の見学会について

前回に引き続き見学会について検討した結果，江戸東京博物館に決定した。

○　今年度の総会と研究協議会について

今年度の総会，研究協議会は創立40周年記念式典を同時に行うため分科会の研究協議会は行なわない。ただし各分科会の活動内容については簡単に報告することにした。

また当日の構造分科会の展示については遠山時幸委員によりモーメント指示装置が完成したので，そのモーメント指示装置を構造分科会として展示することを確認した。

2年7月12日(木)

○　江戸東京博物館の見学について，佐藤が東京都財務局営繕部へ見学の依頼をし，12月7日(金)に予定した。

江戸東京博物館は両国の国技館の近くに所在し，地下1階地上7階建の鉄骨造（一部鉄骨鉄筋コンクリート造）である。完成は平成4年の予定で見学予定の12月7日頃は基礎工事とのことである。

見学会の案内については後日各学校宛（東京近辺の学校）に郵送したいと考えています。

10. 計画分科会報告

県立小田原城北工業高等学校　　大　庭　孝　雄

計画分科会では，平成元年度より「建築法規」を分科会活動のテーマとして，指導法の検討　教材作成を進めております。本年度は，すでに機会あるごとにご紹介しております教材「法規の手引書」の作成をよりどころに，活動を続けてきております。

昨年度には，「法規の手引書」の目次案を作成し，各章ごとに，解説項目や演習項目の選定，作成方針などの協議を重ねてきました。

本年度は，この企画にもとづきまして，一次原稿の作成を急ぎ，年度末には，全ての原稿をまとめ，体裁が整うよう努力いたしております。

ここで，「法規の手引書」の目次案と各章で扱う，解説や演習項目について，ご紹介いたします。

第 1 章　建築法規のあらまし

（解説）　法体系・形式，用語，基準法の目的・構成 etc

第 2 章　用語

（解説）　特殊建築物，居室，耐火・防火構造，耐火・簡易耐火建築物，敷地，地階 etc

（解説・演習）　延焼のおそれある部分，面積の算定法，建築物の高さ，軒高，階数，地盤面

第 3 章　建築手続

（解説）　確認を要する建築物・用途変更・建築設備・工作物 etc

（解説・演習）　確認申請解説及見本（例）

第 4 章　一般構造規定

（解説）　階段，踊場，傾斜路，廊下，便所，煙突，昇降機 etc

（解説・演習）　居室の天井高・床高・採光・日照，採光有効面積の算定方法，居室の換気・換気設備

第 5 章　防火規定

（解説）　市街地の防火規定，耐火・簡易耐火建築物，防火区画，内装制限 etc

第 6 章　避難規定

（解説）　2 以上の直通階段，歩行経路の重複区間，避難通路，排煙設備，非常用の照明装置 etc

（解説・演習）　歩行距離

第 7 章　都市計画区域内の制限

（解説）　道路，用途制限，防火・準防火地域内の建築物，建築基準法によるその他の各種地区 etc

（解説・演習）　容積率，建ぺい率，高さ制限，道路・隣地・北側斜線制限日影規制

第 8 章　構造強度

（解説）　外力，許容応力度，材料強度，鉄骨造，鉄筋コンクリート造のコンクリート・鉄筋・柱・床版・はり・耐力壁 etc

（解説・演習）　軸組計算，補強コンクリートブロック造 etc

第 9 章　その他の規定

（解説）　仮設建築物，工事現場 etc

第 10 章　関係法規

（解説）　建築士法，建設業法，宅地造成等規制法，都市計画法，その他の各種関係法規 etc

概ね，以上のような内容にもとづきまして，一次原稿の作成を進め，分科会委員会はもとより，教材委員会などに提示いたして，内容検討を進める予定です。

来年度の総会・研究協議会には，見本稿を提示し，広く会員の先生方からのご意見を拝聴，内容の充実をはかりたいと存じます。

以上，分科会の活動状況につきまして，ご報告申し上げますと共に，今後共，会員の先生方のご協力をお願い申し上げる次第です。

来年度の夏季講習会につきましては，計画分科会が担当予定です。講習会の内容は，現在，企画の段階ですが，「建築法規」と「建築史」を主体とした内容で，準備を進めております。来年度，早々に，詳しくご案内申し上げます。

11. 施工分科会報告

神奈川県立向の岡工業高校　　山　崎　敏　弘

平成２年度の総会は創立40周年記念行事と重なり，分科会の研究協議会がなく充分な資料と発表ができませんでした。そこで今回は平成元年度と２年度途中迄の委員会活動内容を報告いたします。

平成元年度　施工分科会開催日程・概要

第１回　平成元年４月28日，会場・埼玉県立春日部工業高校

①報告事項　理事会（平成元年１月13日，於小石川工高）より

○二級建築士受験資格拡張運動について。○製図コンクール委員の選出について

○「建築基礎問題」完成について　○創立40周年行事に関する件　○その他

②審議事項　○昭和63年度施工分科会会計報告，承認なる。

収入：50,000 円（本部，分科会年度会費 40,000 ，教材委員会より 10,000）

支出：50,000 円（会議費 3,000×7回，通信費 12,520 ，資料費・ゴム印代16,480）

○平成元年度製図コンクール委員として，三浦，村上委員の留年が決まる。

○平成元年度総会・分科会研究協議会（静岡大会）の各委員提出資料の検討と作成。

研究議題・建築施工の学習指導「施工実習の項目と実習報告について」

❋５月12日　近辺学校委員出席し研究協議会資料の印刷・製本　（於　向の岡工高）

❋平成元年度総会・研究協議会　（静岡大会　６月９～10日）

施工分科会の内容については，昨年の「建築教育ニュース」に掲載。

第２回　７月21～22日　委員の研修を兼ね，日本建築専門学校，プレカット工場を見学。

①報告事項　○静岡大会，研究協議会の報告

②審議事項　○平成元年度・研究テーマの決定。静岡大会・研究協議会における会員の要望など検討の結果，前年度のテーマ「施工実習の項目と実習報告書」を継続し，より充実した内容にすることに決定。

第３回　10月26日，会場・横須賀市立工業高校

①報告事項　○日本建築専門学校，ミツワ清水プレカット工場の研修見学会の報告

②審議事項　○研究テーマの基本方針と各委員分担を決める。

「実習報告書例を学校現場で使いやすいように作成する」を目的に，前年度の基本方針に，次の項目を追加研究することにする。①測量実習の項目を加える，②実習項目ごとの解答例を作成する，③指導者所見欄を設ける，④形式・文字・語句を統一する。

❋委員会終了後，昨年度まで永年施工分科会委員及び本部理事として御活躍され，この３月横須賀市立工業高校を退職された佐藤克己先生を囲んで懇談会を行った。先生から分科会活動のお話しや工業高校教育への情熱を拝聴し，大変勉強になった。

第４回　12月12日　会場・都立小石川工業高校

①審議事項　○研究テーマにおける各委員からの資料提出・検討する。

※委員会開始前，会場校の体育館建設工事現場，ＣＡＤ室などの施設を見学した。

※委員会終了後，委員会の反省と親睦のため懇親会を行なった。

第５回　平成２年３月12日，会場・都立田無工業高校

①報告事項，理事会（１月13日，於小石川工高）より

○製図コンクール委員の選出について　○「建築基礎問題」の見直しについて

○平成２年度の分科会委員について　○総会・創立40周年行事に関する件　○其他

②審議事項　○平成２年度製図コンクール委員は，塩山，高橋委員に決定。

○平成２年度施工分科会委員として，大沢委員がご都合で辞め替りに越生高校の堀口先生が委員になる。他の委員は留任する。

○研究テーマにおける各委員からの資料提出された資料を検討する。

○平成４年度夏期研究協議会は施工分科会で担当する旨，理事会に要望することを決める。

※委員会開始前に会場校武道館建設工事現場，ＣＡＤ室などの施設を見学した。

平成２年度

第１回　５月25日，会場・神奈川県立向の岡工業高校

①報告事項，理事会（３月13日，５月19日，於小石川工高）より

○西日本工高建築連盟総会（５月19日）に，松井（都立葛西工高）理事出席する。

事務局都立田無工高になる。○夏季研究協議会について，○総会・創立40周年記念について。

②審議事項　○平成元年度施工分科会会計報告，承認なる。

収入：58,760円（本部・分科会年度会費45,000，教材委員会より，13,760）

支出：58,760円（会議費3,000×5回 通信費10,926，資料費8,800，反省会・見学会補助24,034）

○平成元年度の研究テーマ，各委員からの資料提出とその検討する。

○平成２年度の研究テーマの検討

建築施工の学習指導について，「建築施工教科書の指導内容・方法」に決定する。

このテーマは，第37回石川大会の研究協議会で第１章～４章までを発表したもので，その基本方針に準じ「建築施工・改訂版」の第５章からを検討するものです。

第２回　７月６日，会場・日本工業大学付属東京工業高校

①報告事項，理事会（６月18日，於小石川工高）より

○総会・創立40周年記念に関する件，○その他

②審議事項　○平成元年度の研究テーマについて，資料の検討をし，まとめる。

○平成２年度の研究内容について，分担と各委員の担当及び今後の予定を決める。

※平成２年度・創立40周年記念神奈川大会（７月25～26日）にて，施工分科会の研究内容及び２年度の研究テーマ概要を報告する。

追記，分科会活動は年間５～７回の委員会を開催し，その研究内容は全委員で分担して行なっています。さらに，１～２回の施設・建設現場の見学，親睦会，各委員の学校訪問など，お互に研修を重ねています。会員皆様方のご理解・ご協力をお願い致します。

12. 製図コンクール運営委員会(第8回 審査結果)報告

東京都立田無工業高等学校　　赤　地　龍　馬

第8回（平成元年度）製図コンクールには，会員校および，会員校以外の諸先生方のご協力を得まして，優秀な作品を多数応募いただき，ありがとうございました。厚くお礼申し上げます。

今後とも，諸先生方の絶大なるご協力，ご支援をお願い申し上げます。

なお，第8回の審査結果につきましては，入賞者一覧表および，課題3の金賞図面は，住宅建築の専門月刊誌である「住宅建築」（資料研究社刊）の平成2年2月号に掲載しました。

第1回（昭和57年＜1982＞）から，第8回（平成元年＜1989＞）までの総括として，「創立40周年記念誌」に，入賞者一覧表などを掲載しました。第1回の入賞者諸君は，今どんな業界で活躍していることでしょうか。

1. 応募校数

77校（全日制　73校）　定時制　4校）

東（会員校）　全日制　58校　定時制　2校

西（会員校以外）　全日制　15校　定時制　2校

2. 応募作品数

	学校数・作品数		全日制・定時制の別			
課題1	東	58校	110点	全 56校	107点	定 2校 3点
	西	16校	28点	全 14校	24点	定 2校 4点
課題2	東	44校	81点	全 41校	77点	定 3校 4点
	西	8校	16点	全 8校	16点	定 0校 0点
課題3	東	33校	56点	全 32校	55点	定 1校 1点
	西	4校	7点	全 4校	7点	定 0校 0点
計	298点（東 247点・西 51点）					

3. 各課題応募作品数・学校数

	1点	2点
課題1	8校	65校
課題2	7校	45校
課題3	11校	26校

4. 都道府県別応募数・学校数

都道府県	会員校数	課題1		課題2		課題3	
		学校数	応募数	学校数	応募数	学校数	応募数
1 北海道	17(5)	0	0	0	0	0	0
2 青森	6	1	2	0	0	0	0
3 岩手	4	3	6	2	4	2	3
4 宮城	4(1)	1	2	1	2	1	1
5 秋田	5	1	2	0	0	0	0
6 山形	7(3)	2	4	0	0	0	0
7 福島	7(1)	1	2	1	2	0	0
8 栃木	6(1)	2	4	2	4	1	2
9 群馬	8(2)	5(1)	9(1)	3(1)	5(1)	4	7
10 埼玉	6(1)	5	8	3	6	1	2
11 茨城	3	0	0	0	0	0	0
12 千葉	4(1)	2	4	3	5	2	3
13 東京	14(3)	9(1)	18(2)	7	11	3	5
14 神奈川	11(4)	5	10	3	6	3	4
15 山梨	4(1)	3	5	4(1)	6(1)	4(1)	6(1)
16 新潟	3	0	0	0	0	0	0
17 長野	5(1)	1	1	1	2	0	0
18 富山	2	0	0	0	0	0	0
19 石川	5(1)	2	4	0	0	0	0
20 福井	2	0	0	0	0	0	0
21 静岡	9(3)	3	5	2	4	1	2
22 愛知	9(1)	7	14	7	14	7	13
23 岐阜	8(1)	5	10	5	10	4	8
計	149	58	110	44	81	33	56
定時制	(30)	(2)	(3)	(2)	(2)	(1)	(1)
24 西日本	122	16(2)	28(4)	8	16	4	7
三重・京都・大阪・兵庫・岡山・広島・徳島・香川・愛媛・長崎・熊本							
合計		74(4)	138(7)	52(2)	97(2)	37(1)	63(1)

( ) 内の数字は定時制

5. 入賞者一覧表

課題 賞	課　題　1	課　題　2	課　題　3
金　賞	県立一宮工業高等学校　成田聖栄	県立龍野実業高等学校　岡島綾一	県立市川工業高等学校　松本宗隆
銀　賞	県立半田工業高等学校　大曽根正幸 県立高崎工業高等学校　茂木秀幸 私立東京工業高等学校　上林久夫	市立鶴見工業高等学校　国分直樹 都立田無工業高等学校　金子浩之 県立川越工業高等学校　利根川正春	県立市川工業高等学校　前堀勝紀 県立大船渡工業高等学校　板坂　茂 県立岐南工業高等学校　藤田享弘
銅　賞	県立高崎工業高等学校　鈴木広志 私立千葉経済高等学校　山本由恵 県立豊橋工業高等学校　北川章夫 県立豊橋工業高等学校　岡野光浩 県立羽咋工業高等学校　上牧久展 県立久慈工業高等学校　野田信吾 県立高山工業高等学校　堀　規靖 県立大宮工業高等学校　三尾慶美	県立一宮工業高等学校　行岡伸治 県立宇都宮工業高等学校　檜山剣一 県立一宮工業高等学校　鹿取竜也 県立高崎工業高等学校　飯島美穂 県立高山工業高等学校　笠木　治 市立鶴見工業高等学校　本多ひろみ 都立田無工業高等学校　林浩太郎 県立高山工業高等学校　谷口善次 県立津工業高等学校　園部敏弘	県立半田工業高等学校　中濱裕貴 県立水島工業高等学校　文屋和弘 私立関東第一高等学校　石野　仁 県立豊橋工業高等学校　佐久間隆宏 県立峡南工業高等学校　宮下智恵美 県立高山工業高等学校　中川　暢 県立峡南高等学校　岩崎位仁
奨励賞	県立宮島工業高等学校　宮下賢治 県立前橋工業高等学校 定時制　関口ゆみ子 都立小石川工業高等学校 定時制　榊原敏幸 府立西野田工業高等学校 定時制　土井秀宰	県立前橋工業高等学校 定時制　笠原敏昭 県立甲府工業高等学校 定時制　伊藤公江	県立愛知工業高等学校　岡部貴明

第８回（平成元年度）審査委員

遠藤　勇（日工大付東工）　高橋義治（市川工）　松井貞二（葛西工）
大間俊彦（関東一高）　高野秀章（日工大付東工）　松本重昭（大宮工）
古賀昌之（東工大附工）　土田裕康（蔵前工）　三浦陽助（横須賀市工）
酒井健一（神奈川工）　筒井喜男隆（鶴見工定）　村上竹久（藤沢工）
塩沢　泰（関東一高）　角田勝男（神奈川工）　依田洋次（川崎市工）
諏佐真一（蔵前工）　福島　勝（日工大付東工）　赤地龍馬（田無工）

13. 事務局（田無工高）より

○ 千葉県船橋市の，株式会社　住研（社長　多田長夫氏）より　教材（ビデオテープ）が寄贈されました。教材は，「心に残る故郷のすまい」上・中・下の三巻（上映時間，各巻約20分）です。このビデオは，船橋市のリニューアルによって，失われる古い由緒ある建造物を，中村忠実先生（墨田工高・船橋市文化財審議会副委員長）の監修・解説により，撮影記録された貴重な資料です。事務局（田無工高）で保管しておりますので，教材としてご利用ください。

○ 年会費（平成２年度）未納の学校は，できるだけ早く納入してください。前事務局（小石川工高）にならい，全会員校完納をめざして，ご協力をお願いして参ります。よろしくお願いします。　（事務局長　赤地龍馬）

14. ニュース

1. 平成３年度の総会・研究協議会は，来夏８月５日（月）・６日（火），宮城県松島において宮城県下の建築科の先生方が実行委員となられて開催の予定です。
2. 平成３年度の夏季研究協議会は，７月下旬に計画部会が中心となって「法規」に関するテーマで神奈川県下で行う予定です。
3. 本会の事務局が，都立小石川工業高校から都立田無工業高校へ移りました。
   ３年間，松田先生をはじめ小石川工高の先生方ご苦労様でした。

平成２年度の会員名簿の追加訂正

P.3　製図分科会　委員角田勝男（向の岡工）を角田勝男（神奈川工）に訂正

P４　製図コンクール運営委員会委員に　松本重昭（大宮工）を追加

P５　西日本工高建築連盟の当番校の訂正

534　大阪市都島区善源寺町1-5-64　06-921-0231

市立都島工業高等学校内

P11　釧路工業高等学校　全日制校長　杉森　杲二　を宮川　史章に訂正

P39　県立大宮工業高等学校　電話　[illegible]　を　[illegible]　に訂正

P45　私立千葉工商高等学校　追加

助手　時谷　昌秀　[illegible]

あ　と　が　き

おかげ様にて，「建築教育ニュース」1990年号ができあがりました。

本年度は，本会40周年記念大会ということで，神奈川県の先生方に大変お世話になりました。

教育活動に日頃お忙しい中で，ご執筆いただきました先生方有難うございました。

1990，11，

編集委員会

編　集　編集委員会　　池田（川崎市立工）　遠藤（日工大附東工）
大間（関東第一高）　中尾（葛西工）　古賀（東工大附工）

発　行　東日本建築教育研究会　　（代表　清水　守男）

事務局　東京都田無市向台町１－９－１　TEL　0424-64-2225
都立　田無工業高等学校　（事務局長　赤地　龍馬）

編集事務局　東京都港区芝浦３－３－６　TEL　03-453-2251
東京工業大学附属工業高等学校　（古賀　昌之）